

## 「ライダーと馬のたゆみないステップアップへの挑戦」 8月トレーニングライド

8月11日

8月のトレーニングライドは、6時からの獣医検査開始で静かに始まった。大半のライダーは引き馬をして、獣医検査の順番を待っている。この中に、大会初出場のミルクィとヒカリが混じっている。月毛だが葦毛のように見えるミルクィは、本当にミルクィの色のようにかわいらしい姿だが、顔が緊張しているのが良く分かる。いつもと違う雰囲気、大きな時計があり、カチャツの音の後、数字の札が変わる「ああー驚いた。あっちにも大きなバケツがある。バケツの親分は私が入れそうだ。アーコワイ！」と感じているのが良く分かる。その姿を見ていると生後3~4日で、鹿追から北軽沢への長旅をしてきた姿を思い出す。母馬のシルキーが自主的に種付けを済ませていることを、売主・買主も知らないで購入。種付けを試みるも雌馬が撥ねて上手くいかないとの報告を受けて、念のための獣医師の検査で受胎していることがわかった。出産の時期も分からないまま、移転のスケジュールが決まり、移転の直前に生まれた仔馬。



(写真：ミルクィ)



(写真：6月14日誕生のヒカリ)

一方の初出場のヒカリは、北軽井沢牧場生まれの第1号。大会当日の朝に誕生していて、スタッフもみな大会開催で大忙しの最中だった。(大会当日は、馬の出産とぶつかることが多い。これは仕方がない、大会はなるべく満月の日を選んで決めているのだから。出産は自然の摂理で満月の日が多い。)  
「あら、生まれたの。順調だったのね」との一言で、馬房の中に放置されていた。母馬のホタルが既に源氏を出産していて経験があるので、スタッフは安心していった。この二組の親子は、白・白、黒・黒の組み合わせで、4頭を一種に放牧しておく、まるでオセロのようだと見るものを楽しませてくれた。



(写真：二組の親子)

このヒカリも、引き馬で歩きながら、緊張のためだろう、大きなため息をついていたようだ。「フー——」

もう1頭初出場の馬がいた。ドサンコスタリオンのチャームだ。1頭だけ、ほかの馬から離れたところで引き馬をされている姿は、本当にスタリオンの姿だ。スタリオン候補生が、どうやらスタリオンになったようだ。

8月のトレーニングライドは60km1人馬、40km7人馬、20km6人馬の計14人馬と盛況。ライダーのステップアップの意欲の強さを感じる。

60kmはムーン号と吉田ライダー。最初から最後まで孤独な1人馬の旅だ。孤独な1人馬で60kmを完走・お見事！

40kmには、AHRの馬ではなく川西ライダー所有のエル号も参加。

涙を誘う親子の再会の感激シーン（乳離れのために、母馬ユーリンは一足お先にホテルママとともに伊東のランチにやってきて、コリンはその半年後に北軽井沢やってきたのだ。馬運車を降りたコリンと馬運車のそばに連れてきておいたユーリンは再会。ジーンと見合っって首を絡ませるようにして静かにしている姿を忘れられない）を見せてくれたユーリン・コリン親子が揃って仲良く出場。これも見事に、40kmの7人馬は完走。

そして、緊張の初出場の3頭はベテランライダーの先導で出場。20kmの6人馬も全頭完走。

トレーニングライドの名称にふさわしい、「馬とライダーのたゆみないステップアップへの挑戦」の報告でした。ライド中の写真がないことをお詫びいたします。